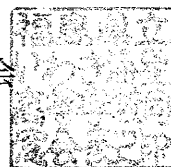


令和元年 12 月 23 日

日本共産党福島県議会議員団  
団 長 神 山 悦 子 殿

福島県立いわき海星高等学校同窓会  
会 長 志 賀 春 男



福島県立  
いわき海星高等学校父母と教師の会  
会 長 木 船 憲 一



## 福島県立高等学校改革懇談会『いわき海星・小名浜』継続審議と

### 地域の特性を生かした学校改革にするための意見書について

貴殿に於かれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、福島県県民の生活基盤安定のために積極的な活動を展開していることに対して、ご尽力されていることに敬意を申し上げます。

平成 31 年 2 月 8 日に公表された福島県立いわき海星高等学校・小名浜高等学校の統合報道が発表されました。

日本全体が人口減少による過疎化問題が進んでおり、福島県も同様に人口減少化傾向をたどっている状況にあります。特に、子供達の減少により生徒数が増える見込みがなく同時に学級も減る見通しが示されている現状にあります。

こうした背景を踏まえて、『高等学校改革懇談会(いわき海星・小名浜)』が設置され、生徒数減少期に於ける県立高等学校の在り方や地域の特性を生かした学校の改革について、更に、再編整備に係わる地域の関係者の意見を聞くために、第 1 回『改革懇談会』が 4 月 26 日開催されました。

その後、第2回、第3回の『改革懇談会』が開かれ、改革懇談会委員からは統合校の方向性・学科構成・校舎利用・特色化・専攻科生徒の教室・水産科生徒(本科生)の校舎利用等について数多くの意見と質問並びに要望事項が出されました。

しかし、高校教育課県立高校改革室からは、前向きな答弁がなかったことなどを背景に有意義な意見交換がなされているとは思われない状況となっております。

このような経過の中で、第3回『改革懇談会・11月5日』閉会の挨拶で、高校改革室長より、今回の『改革懇談会』を以って終了することが報告されました。

一方的に報告され、未だに明確に論議が行われていない統合校の方向性・学科構成・特色化・学校名等数多くの検討課題が残されている中で、『改革懇談会』を終了する高校教育課県立高校改革室の姿勢と進め方には、到底理解を得ることが出来ない状況にあります。

いわき海星高校と小名浜高校が統合するメリットを生かしたことを最大限に発揮することによって、将来に渡って明るい希望が見える学校を作っていくことが重要だと考えています。

従って、一定の方向性を見出すまでは、『県立高等学校改革懇談会』の継続審議を強く要請致します。

以上

## 要望事項

いわき海星高等学校の PTA と同窓会から要望事項を申し入れ致しますので、前向きな回答をお願い致します。

### 1. 学科構成について

現状の 1 学級 40 名でも一部の学科で定員割れとなっている現状であること、更に、今後の少子化を鑑みれば 1 学級 30 名にすることがベスト考えられます。再検討をお願いしたい。

また、4 学科維持のために教員の数を減らさないでほしい。教員数を減らすのであれば教育内容がかなり見劣りするのではないかと考えられる。学びたい生徒を置き去りにしたものになってしまわないか心配が残ります。

※水産科を 4 学級とし 1 学級の生徒数を 30 名の定員 120 名とし、教員の数も現状体勢維持を強く求める。

### 2. 生徒の主体的学習活動と特色化について

現在、改革懇談会で提示されている内容では、教育内容が見劣りするのではないかと心配する面があります。更に、本当に魅力と特色化ある新しい学校になるのか疑問視されますので、具体的な対応を強く求めます。

### 3. 学科間での連携した学習内容について

新しい学校で学科間の連携がスムーズに対応出来るのか、また、生徒達に混乱を招くのではないかと心配される。学科間の連携に対応する考え方を示されたい。

### 4. イノベーション・コースト構想について

イノベーション・コースト構想に基づく人材育成についてどう考えているのか、また、環境整備はどのような形で実行するのか具体的な説明を強く求めます。

### 5. 専攻科生徒の教室確保について

いわき海星と小名浜の生徒達の一体感を図るために各種行事等を検討していますが、教室を確保することは困難との見解を示しております。生徒達の教室が無いことが本当の教育改革とは理解しがたいので、前向きな対応を強く求めます。

以上